

NPO 森林インストラクターしずおか

山梨健康の森と清里自然歩道「富士山とせせらぎの小径」研修会報告書

1. 実施日時 令和5年10月31日(火)～令和5年11月1日(水)
2. 実施場所 (野外研修)山梨健康の森と清里自然歩道「富士山とせせらぎの小径」
(室内研修)長野県諏訪郡富士見町 八峰苑鹿の湯
3. 参加インストラクター会員



担当幹事: 杉山、佐野

参加会員: 高橋、矢下、越智、小久保、小嶋、早川、喜多、朝比奈、小長井、瀬下

計 12名

数年前、健康の森を春に訪れ、花の美しさが印象的に残った。清里は、これまで何度となく訪れ、スケールの大きな風景と気持ちの良い森林散策やハイキングを楽しんできた。こんな場所を、インストラクター仲間を紹介したい。そんな気持ちから、今年の研修場所を決めた。

《健康の森》2023.10.31(火)

健康の森は、甲府市街地のすぐ北にある丘陵で、甲府市の方がよく利用しているところである。丘陵の南側と北側では植生に違いが見られ、それを知るのも面白かったのではあるが時間的、難度の面から傾斜が緩く明るい南側のコースを選択した。癒しの小径～西の平～山吹の道が主なルートである。

このコースの特徴は、南斜面であるがゆえにコナラ、クヌギ、ミズキなどの陽樹が多いこと、それに特筆すべきは、ヤマコウバシとハクウンボク、ムクロジが非常に多く生育していることである。これが、自然のものなのか植栽されたものか定かではないが、ムクロジに関しては植栽された可能性が強い。

歩き始めて、まず、リュウノウギクとヤマラッキョウ、ノコンギクのお出迎えである。草本類はこの後あまり目にしなかった。

ヤマコウバシが黒い果実をつけており、その形はクスノキ科の特徴を示していた。ハウノキ、オニグルミ、ダンコウバイと次々に出現する。ダンコウバイは黄色に色づき、特徴的な葉芽、花芽をつけていた。ムラサキシキブは名の由来(紫重実)のとおり、紫の実をたくさんつけていた。

イロハモミジ、オオモミジのトンネルをくぐり抜けると、幼木だが大きな葉っぱを目にする。「これは何かな。」と投げかけるも、意外にあっさり「ハクウンボクかな。」と答えが出た。流石、インストラクター。枝の樹皮が剥ける特徴があるとか。その先に、親木であろうと思われるハクウンボクの成木が現れ、残った果実がぶら下がっていた。

昔は、土手や河原によくあったと言われるニワウルシが冬姿で立っていた。わずかに種子をぶら下げていて、落下した種子を拾う。これを投げて、風散布種子の飛行の仕組みを確認した。

ここには、クヌギやオニグルミも多く、ドングリやクルミは拾い放題、動物ばかりでなく、人にとってもなんと嬉しい森である。下見では気が付かなかったが、普段あまり目にしないオオバアサガラが果実の残骸を垂らしていた。初めて目にする会員もいて、写真に収めた。

当初は、早めに健康の森に到着したので、森林学習展示館や展望台へも足を延ばそうと思っていたが、研究熱

心なインストラクターの面々、「これがどーの、ここがどーの。」なかなか前に進まない。結局、予定通り、程よく疲れ屋外授業を終了し、長野県富士見町の宿泊施設へ向かった。

(座学「哺乳動物の体とくらし」)

講師は、佐野インストラクター。動物、とくに哺乳動物についてその生存に関わる感覚器官(五感)について各感覚ごと、体の部位ごとに学ぶ。

動物にとっては、五感の発達が生命維持に直結し、嗅覚、視覚、聴覚のいずれかが特に発達し、それによって暮らし方が決まってくる。目の位置による見え方の違い、瞳の形、草食や肉食により、歯の配置が違ふこと、食べ方、飲み方、糞の違いなど興味を引く話が次から次へと飛び出す。四つ足動物の歩き方一つが、敵から身を守ることになるなど知らないことばかりであった。

研修から帰った夜、NHKのテレビ番組「美の壺」が馬をテーマにしていた。競争馬、農耕馬、撮影専門の馬など、その調教の仕方や家族の一員として世話をしていることなど紹介されていた。ここで気が付いたことがある。競走馬が走る。調教の際に走る。材木を引っ張る。どの馬も、前に進むときにやや下を向いている。そうだ思い出したことがある。「馬は目がいびつなので、顔が上に向いている時は、下がよく見えている。顔が下を向いている時は上がよく見えている。」このことかと合点がいった。佐野インストラクターの座学が早速生きたものになった。

《清里自然歩道「富士山とせせらぎの小径」》 2023.11.1(水)

早朝、甲斐駒ヶ岳のモルゲンルート。好天が約束された日、清里へ出発。宿舎の周辺はドンピシャの紅葉で感激する。走る車窓の中から真黄色のダンコウバイ、カエデのオレンジや鮮やかな赤のグラデーション、ついつい見てしまう。東沢大橋では、見事な紅葉を前景にハヶ岳主稜線が晴天の空に聳えていた。

ここに、黄葉した1本のヤナギの仲間があった。「アカメヤナギ、いやハッコヤナギ、さあどっちかな？」こうして始まった研修2日目、「さあどっちかな？」方式で清里自然歩道「富士山とせせらぎの小径」を歩くことになる。

ハヶ岳自然ふれあいセンター横でウラジロモミを観察、軸だけが残った球果が目についた。視線を下げると飛び散った種鱗が落ちていた。

歩きだすとサラサドウダンの急に上を向く果実、ノイバラやガマズミの赤い実など熟期を迎えていた。その先には、立派なヤマブドウ。上を見れば高いところに果実が残っていた。写真を撮ってズームで確認、ついでにカメラ自慢。ヤナギが出てきた。「シロヤナギ、オノエヤナギ、さあどっちかな?」。淡い緑の葉に赤い実、「ウメモドキ、アオハダ、さあどっちかな?」答えを引き出すために、葉や樹皮、冬芽などの特徴を見ることでしっかりと覚えることができるのである。

「この辺りに、サクラソウが咲いていた。その場所に似ている。」とある会員が言った。遠い青春時代の記憶が蘇ったようだ。

いかにも枯れたダケカンバのような木が現れる。幹を触ってみると冷たく堅い。よく見ると樹皮がガサガサで幾重にも剥がれている。カバノキ科であることは察しがついていた。図鑑で調べてみた。ヤエガワカンバ(八重皮樺)だった。図鑑では知っていたが、実物に出会ったのは初めてであった。コマユミ、ツリバナこれらは果柄の長さ、果皮の割れ方(4裂、5裂)で同定した。

そんなこんなで、自然歩道を周遊した。前日の健康の森とこの清里自然歩道とでは全く植生が違う。このことには、会員の皆さんが気付かれたと思う。また似た者同士の違いを、葉や樹皮、冬芽、果実など様々な情報をもとに確認できたことと思う。図鑑の有効性も理解できたと思う。みんなで考えながら！本！本確認していくことで得る情報も多い。こうしたことが研修会の大きな意義であろう。天気、ロケーションとも素晴らしく、和気あいあいと楽しい研修会になったことは、参加した皆様のご協力、心遣いの賜物、感謝します。ありがとうございました。

研修風景写真集



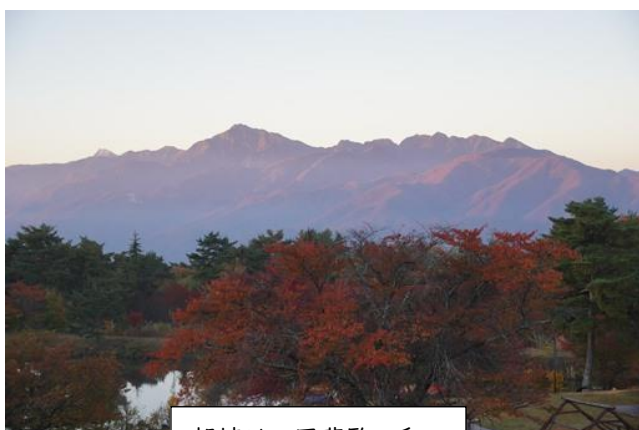
健康の森で植物観察



健康の森でお昼ご飯



八峰苑鹿の湯の前で



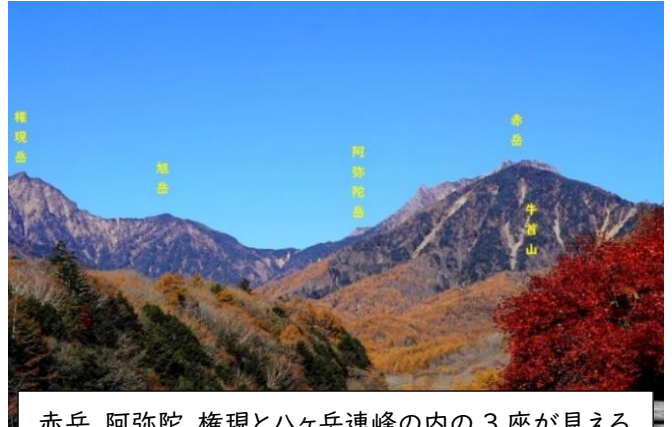
朝焼けの甲斐駒ヶ岳



楽しい夕食



紅葉とハケ岳の稜線



赤岳、阿弥陀、権現とハケ岳連峰の内の3座が見える



富士山とせせらぎの小径を歩く



太いやまブドウの蔓



初めての出会いヤエガワカンバ



さて図鑑では



残っていたヤマブドウ果実